

1200年以上の間、種からも接木・挿し木からも二世木が出来なかった。

最新の研究と技術により、**遂に二世木誕生！**

国の天然記念物

恵那市制20周年記念

中将姫誓願桜




植樹式



郷土の偉人 **三好学**博士のご縁で、恵那市岩村町に苗木がやってきます。

令和6年

4月7日  午前9時30分～

会場：岩村城址公園内 三好学銅像下



中将姫誓願桜「植樹式」 令和6年4月7日(日) 午前9時30分～ 会場:岩村城址公園 三好学銅像下

◎中将姫誓願桜と三好学の関係

岐阜市大洞の如意山「願成寺(がんじょうじ)」境内に咲く国の天然記念物「中将姫誓願桜(ちゅうじょうひめせいがんぎくら)」。この桜が珍しい品種であることが分かったのは、大正10年9月の台風で本堂が倒れ、桜の幹が折れたことが新聞記事に掲載され、この記事が岐阜県の偉人で昆虫翁と言われた「名和靖」氏の目にとまり、調査が開始された。翌年、名和靖氏が東京帝国大学の「三好学」博士に桜の調査を依頼し、新種として全世界に発表されました。中将姫誓願桜の学名は「プルヌル・フロリドラ・ミヨシ」と言い、最後の部分に「ミヨシ」と三好学博士の名が入っており、昭和4年4月に文部省から天然記念物の指定を受けました。今回の贈与に関しては、「金澤正雄」恵那観光大使が「願成寺」ご住職、梶田昌宏様に三好学博士の出身地「恵那市岩村町」への苗木の寄贈についての思いを告げたところ、中将姫誓願桜保存会会長の玉田和浩様から贈与可能のご連絡があったことから始まります。

今回、贈与頂く桜がどれほど特別なものか。

種子から発芽する実生や接木など、この桜は枝分けが困難とされ成功しなかった。平成5年、岐阜県白鳥林木育種事業地で中将姫誓願桜の接木による二世木の得苗に初めて成功した。平成8年願成寺境内に3本、白鳥林木育種事業地に2本植栽した。その後、願成寺境内の1本を平成21年2月岐阜市制120周年記念事業として、JR岐阜駅北口「里山広場」に移植寄贈。その他、平成21年に白鳥林木育種事業地で得苗した接木二世木を岐阜県庁、中将姫が剃髪し往生された奈良県當麻寺(たいまでら)、そして今回、三好学博士とのご縁で数少ない二世木を恵那市岩村町に寄贈されます。

◎中将姫誓願桜とは【願成寺HPより(一部中将姫誓願桜保存会改訂)】

樹高8.1m、根元の周囲1.5mで、種類はヤマザクラから変化したものと思われます。花卉の数が24～36弁ありますが、これはヤマザクラよりも多く、珍種であることが確認され、プルヌル・フロリドラ・ミヨシという学名で世界に発表され、昭和4年に文部省から天然記念物の指定を受けました。これは、郷土の偉人で、昆虫翁と言われた名和靖氏の目にとまり、三好学博士に調査を依頼し、学術的に新種であることを立証して「天然記念物に指定すべき」と国に推挙頂いたおかげです。このお二人のご尽力のお陰だと考えております。また、桜の傍らに立てられた石柱の『天然記念物中将姫誓願桜』の文字は、当時の文部大臣で後に総理大臣になられた鳩山一郎氏の筆によるものです。

この桜は枝分けが困難とされていましたが、近年、県の白鳥林木育種事業地で、他の桜に接木をすることで二世木を得苗することに成功し、願成寺境内の他、JR岐阜駅北口「里山広場」、中将姫が剃髪し、往生された「奈良県當麻寺」、新装になった「岐阜県庁前公園」等に寄贈しております。さらに平成20年、JAXAの『花伝説』プロジェクトに参加し、国際宇宙ステーション日本実験棟「きぼう」に搭載された誓願桜の種が見事に発芽し、現在、順調に「宇宙帰りの中将姫誓願桜直系2世」として願成寺境内で成長しております。

◎直系2世の誕生【願成寺HPより】

この桜は、種から発芽するのは確認できませんでした。ところが、平成20年、『花伝説、宙へ』プロジェクトに参加し、この桜の種を宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」に打ち上げ、八か月間保管した250粒の種の中の2粒が、平成22年春に発芽しました。その後、目を見張るほどの速さで成長し、4年後の平成26年春には2本ともに初開花しました。この開花のニュースは、AFP通信を通じて世界中に配信され、大きな話題となりました。現在、2本の「宇宙帰りの誓願桜」直系2世は、親桜と共に願成寺境内において順調に成長しております。



願成寺



當麻寺



岩村町
観光協会